

# 松山市久米地区における 「続」地域安全マップづくり報告

樋野 公宏 独立行政法人建築研究所 特定非営利活動法人しょうまち

## 地域安全マップをめぐる課題

安全・安心に対する要請の高まりを受け、小学校を中心に多くの地域で「地域安全マップ」が作成されている。特定非営利活動法人（以下 NPO）しょうまちでは、2004 年以降、東京都板橋区と愛媛県松山市の 6 小学校で地域安全マップづくりを支援してきた。その経験から、拙著<sup>1</sup>では地域安全マップをまちづくりにつなげるために求められる要件として 3 点を挙げた。

- (1) 継続性：多くの学校で取り組まれている地域安全マップは、一度作ったら終わりの単発的な取り組みである。意識や能力の向上のためには、特定学年の単元として毎年実施すべきであり、まちづくりの観点からは、日々変化する地域環境に対応する更新が必要である。
- (2) 総合性：地域安全マップは主に防犯上の視点から作られるため、提案される改善策も防犯を単目的とするものになりがちで、必ずしも生活の質の向上につながらない。防犯だけでなく交通安全、バリアフリー、景観や歴史などに調査項目を広げることは、まちづくりにおけるトレードオフの気付きにもつながる。
- (3) 実現性：危険な場所の意識づけは、必ずしも改善の動機とならない。単なるネガティブチェックに留めず、まちに関心や愛着を持てるよう配慮すべきである。また、多様な主体が協働し共通認識を持つことで、それぞれの役割に応じた多様な対策が可能になる。着実な実現のためには、できれば専門家の協力を得て、改善のための提案や計画などにまとめることが望ましい。本稿では、これらの課題を踏まえて実施した松山

市久米地区での取り組みについて報告する。

## 久米地区のこれまでの取り組み

### 1. 前回報告の概要（2005 年 8 月）

まず、本誌 2005 年 10 月号で報告した、同年 8 月の取り組みの概要を紹介する<sup>2</sup>。

久米地区は松山市の郊外、市役所から南東約 5 km に位置し、中学校区（4 小学校区）に相当する。同地区では、2005 年 8 月、既存の地域連携組織（久米地区青少年健全育成連絡会）主催による地域安全マップづくりを地区内 4 小学校で同時開催した。同会は、久米公民館長が会長を務め、各種地域組織、民生児童委員などの住民、そして小中学校長、PTA など約 150 名で構成される。以前から同会を中心に、みまもり隊の結成などの防犯活動が行われていたところ、松山市教育委員会の仲介によって、県外でまちづくり活動の実績がある NPO しょうまちが協力してマップづくりが実現した。

マップづくりは、地元大学生や市職員のボランティアなどとの協働体制のもとに進められた。発見された課題を地域で共有し、解決に向かうよう、完成したマップを冊子にして配布したり、ウェブで公開したりした。この費用の一部には、住民や地元企業からの寄付が充てられた。

### 2. その後の取り組み

後日、連絡会の全体会議において、各学校で作成された「地域安全マップ」が子ども達から発表され、対応策が話し合われた。その結果、市の制度を活用した防犯灯の増設、通学時における子どもを見守る活動の推進、地域安全マップを活用した安全点検の

継続実施等がなされることとなった。実際、防犯灯の増設、公園の植栽剪定による見通しの改善などが行われた。

それから約一年半が経った2007年1月、NPOしようまちはその後の経過について各校及び地域組織にヒアリング調査を行った。ある小学校では前回の方法を踏襲して地域安全マップづくりを行い、別の小学校ではPTAによって危険箇所や「まもるくんの家」(子ども110番の家)の地図が全世帯に配布されていた。中学校では、全校生徒を対象として、帰宅時に一人になる区間を確認し、危険箇所の洗い出しと周知・啓発を行っていた。関係者からは、「地域安全マップ活動を契機に、公民館活動が活性化した」との評価をいただいた。

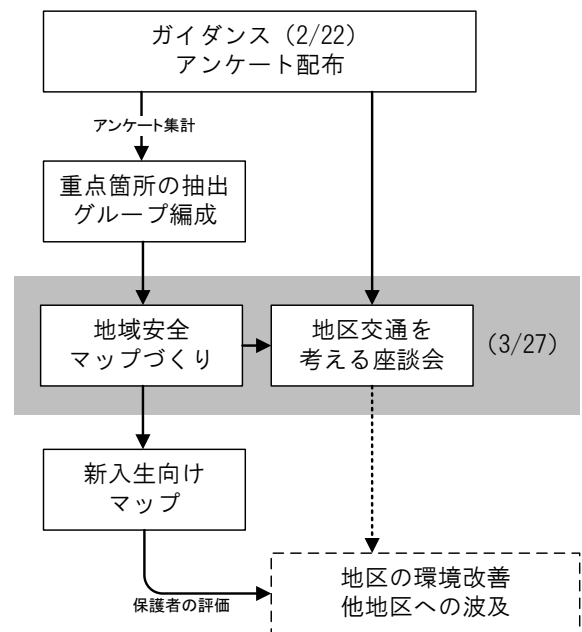


図1 今回の取り組みの全体像

## 「続」地域安全マップづくり

### 1. 目的

前回の取り組みから約3年が経過した2008年3月、「つたえる」をキーワードに再びマップづくりの支援活動を行った。なお、今回は久米地区の4小学校のうち1校(久米小)だけをモデルとした。

このキーワードは「継続性」の観点に基づくものであり、その後の環境の変化に対応した更新を行い、さらに久米小の新1年生にその内容をつたえることを目的として実施した。さらに、前回の取り組み時に小学生だった中学生をリーダーとし、世代間の循環を目指した。また、「総合性」の観点から、交通上の危険箇所や「まちに残したいもの」も調査項目に含めた。「実現性」の観点からは、前回の取り組みでも危険だという指摘が際立って多かった、小学校横の通学路の交通安全をテーマに、大人(保護者、地域住民、教員等)を対象とした座談会を実施した。長期的には、この取り組みを地区の環境改善や他地区での実施につなげることをねらいとしている。今回の取り組みの全体像は図1のとおり表わされる。

### 2. ガイダンスとアンケート調査

2月22日、地域安全マップづくりに参加する小学4～6年生、中学2年生、大人(保護者、地域住民)に対してガイダンスを行った。まずチラシ(図2)を用いて、大まかに役割分担を確認した。その内容は

下記のとおりである。

- ・4年生：まちに残したいものをつたえる
- ・5、6年生：まちの気をつけたい場所をつたえる
- ・中2生：「地域安全マップ」の経験をつたえる
- ・大人：子どもに安全なまちをつたえる

次に、それぞれの役割に応じたアンケート票を配布し、その内容を説明した。4年生のアンケートは「まちたんけん」の授業の学習内容を踏まえ、「久米の素敵なところ、大人になっても残したいところ」を選択理由とともに地図上に書いてもらうものである。5、6年生は通学班長であり、普段から下級生の安全に気を配っていることから、交通安全や防犯の視点から危険を感じる場所を同様に書いてもらった。中2生は、前回の取り組み時に小学生として参加したいわば経験者である。その時の経験を踏まえ、前回以降、小学校区で安全あるいは危険になったと思う場所を、交通、防犯の視点からそれぞれ書いてもらった。保護者と地域住民には、大人の視点から、子どもが交通事故に巻き込まれそうな場所、防犯上の理由から、子どもに行ってほしくない場所を書いてもらった。

限られた時間で広大な校区を網羅するのは不可能であるため、これらのアンケートで回答の多かった箇所について点検を行うという流れである。回答者数は表1のとおりである。

また、これらのアンケートに必要な交通安全及び防犯上の視点を与えるため、各分野の専門家からそ

それぞれ15分程度のレクチャーを行った。地区交通の専門家（寺内義典・国士館大学准教授）からは、生活道路の交通安全の重要性、ヒヤリマップづくりの視点について話題提供があった。著者は防犯の専門家として、防犯環境設計（CPTED）における監視性と領域性の考え方、協働によるまちづくりの必要性などを話した。

こうして集まった回答を見ると、各年代の回答傾向には違いがある（表2）。例えば、大人の指摘箇所は広範囲に散らばり、交通上の指摘は運転者の目線からのものである。また、4年生が素敵な場所に挙げたM公園、H神社は、5、6年生からは防犯上の危険性が指摘されており、安全にかつ楽しく遊べる場づくりの難しさが感じられる。

図2 告知用チラシ

表1 事前アンケートの回答者数

回答者	地区別回答者数			
	南久米	来住	鷹子	計
小4(全員)	35	35	47	117
小5、6(通学班長)	30	27	26	83
中2(前回参加者中心)	6	6	10	22
大人(地域+保護者)	4	6	12	22
合計	75	74	95	244

表2 事前アンケートの主な指摘箇所

<p>【4年生】 久米の素敵なところ、大人になっても残したいところ（3か所）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ M公園、H神社、「里山」などの遊び場</li> <li>・ 公民館、病院、交番などの公的な施設</li> <li>・ K廃寺、J寺、O川など、文化財や景観</li> <li>・ 温泉施設、本屋などの商業施設</li> </ul>
<p>【5、6年生】 自動車・自転車に対して不安を感じる場所、犯罪にあう危険を感じる場所（各3か所）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 小学校北側の変則交差点（交通量が多い）</li> <li>・ 小学校北側の旧街道（道幅が狭い）</li> <li>・ 郵便局前の道路（自転車やバイクがあって通行の妨げになる）</li> <li>・ M公園（不審者や不良に遭遇する）</li> <li>・ H神社（暗い、人目が少ない）</li> </ul>
<p>【中2生】 前回以降、特に安全/危険になった場所（交通と防犯各1か所）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ K駅東側踏切付近(カーブミラーがあるが見えにくい)</li> <li>・ K駅西側道路(道路改良によって速度を出しやすくなった)</li> <li>・ 小学校東側道路(夜に人通りが少ない、民家が少ない)</li> <li>・ G寺前道路(電灯設置により明るくなった)</li> </ul>
<p>【大人】 子どもが交通事故に巻き込まれそうな場所、防犯上の理由から、子どもに行ってほしくない場所（各3か所）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ T駅北交差点（交通量が多い、信号周期が短い）</li> <li>・ 店舗A前（通学時に運転の荒い車が通る）</li> <li>・ O川（雨が降ると増水し、流れも速くなる）</li> <li>・ 国道高架下通路（昼間でも薄暗い、人通りがない）</li> <li>・ 古本屋、ビデオショップなど(不良少年などが立ち寄る)</li> </ul>

### 3. 地域安全マップづくり

事前アンケートを集計し、新入生向けマップに掲載する場所を、指摘の多かった126箇所（以下、重点箇所）に絞り込んだ。重点箇所は、「交通安全に気をつけたいところ」「防犯に気をつけたいところ」「残したいよいところ」の3区分とした。

そして3月27日、会場となる久米小体育館に、参加者、スタッフ合わせ約200人が集合した（写真1、表3）。オリエンテーションの後、小学生、中学生、教員、みまもり隊合わせて5、6人で構成される22班が、担当する重点箇所の現地確認と写真撮影を行った（写真2）。各班の現地確認では、運営側が事前に作成した「点検シート」（アンケートでの指摘理由と位置を記載）を活用してもらった。現地確認を終えると、その重点箇所を新入生につたえるべく、20字以内のコメントにまとめ、地区別の地域安全マップに掲載した。完成した地域安全マップは地区別の発表を経て、全体発表された（写真3）。

これらの実施項目と時間配分を表4に示す。2時間半という短時間だったが、事前準備を周到に行ったため、おおむねスケジュール通り進行した。



写真1 マップづくり会場の体育館に集まる参加者



写真2 まちあるきの様子  
(ジャージ姿が中学生、帽子姿はみまもり隊)



写真3 全体発表

表3 イベント参加者数

地域安全 マップづくり	199人(小学生66、中学生22、保護者10、みまもり隊45、教員40、スタッフ16)
地区交通を考 える座談会	58人(保護者+みまもり隊40、教員6、スタッフ12)

表4 地域安全マップづくりの実施項目と時間配分

オリエンテーション	15分
班に分かれて自己紹介、ルート設定	15分
まちあるき(指摘箇所の確認、写真撮影)	40分
コメントカードの作成、地域安全マップの作成	30分
地区別発表(3地区、4グループ)	30分
全体発表・講評	20分

#### 4. 地区交通を考える座談会

地域安全マップづくりの終了後、会場を公民館に移して「小学校横の通学路を安全に」をテーマとする座談会を行った。これは、子どもが主体となって作成した地域安全マップを受けて、専門家のアドバイスを受けながら、大人が子どもや地域の安全対策を考えるという位置付けである。

座談会の冒頭に、参加者の課題共有のため、地域安全マップの報告と、危険箇所における通学風景を撮影したビデオの放映を行った。ビデオは学校側に依頼し、交通量の多い箇所や雨天時の狭隘道路における通学の様子などを撮影してもらったものである。

その上で、交通の専門家の進行により、地図を用いた通過交通の把握、ハンプ設置や時間帯規制の是非の議論、先進事例の紹介と地区特性に応じた対策のアイデア出しなどが行われた(写真4、5)。



写真4 専門家を交えての課題整理

久米小学校安全マップ【自然と歴史が共存する町】鷹子地区1（北側）

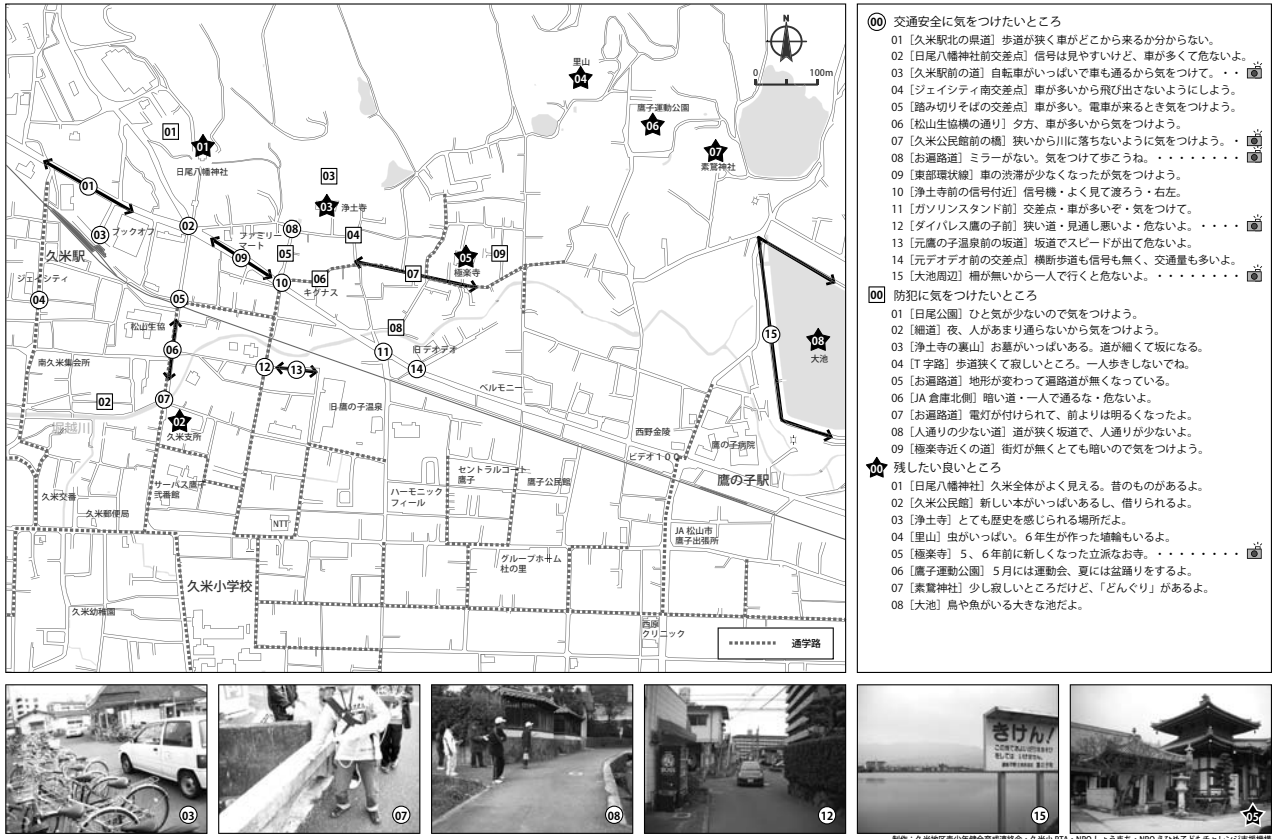


図3 新入生向けマップ（鷹子地区北側）



写真5 意見を出し合う地域住民

5. 新入生向けマップの配布

完成した地域安全マップをもとに作成した地区別の地図（以下、新入生向けマップ、図3）を、4月8日の入学式で新入生全員に配布した。

新入生向けマップはA3サイズで、点検箇所が記された地図、それぞれの場所に対応したコメントを掲載した。一部の主要箇所についてはまちあるきで

撮影した写真も掲載した。また、小学校側の要望により、通学路を地図上に表示した。

この新入生向けマップは、どのように受け止められたのだろうか。配布から1か月後、学校の協力によって新入生の保護者にアンケートを行った。マップの分かりやすさ、情報共有やまちづくりのツールとしての有効性が高く評価され、今後も定期的に配布して欲しいという意見が多かった（図4ア～エ）。実際に子どもと通学路を歩いたり、子どもや知人と話し合ったという保護者も多く、新入生向けマップが意識向上に寄与していることが分かる（図5）。

一方、将来マップづくりを行う場合、参加したいかという質問には消極的な保護者の方が多かった（図4オ）。また、マップづくりに留まらず、改善に向けた取り組みにつなげるのが重要だという意見が多かった（図4カ）。これらは今後の課題であろう。



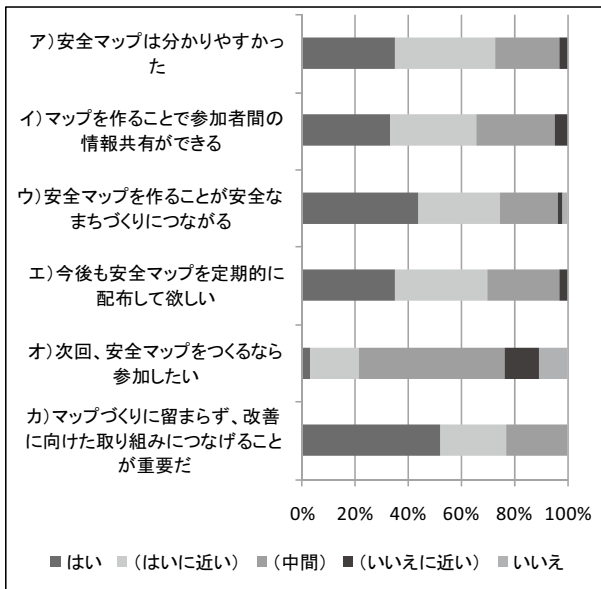


図4 地域安全マップに対する感想・意見

※実施時期：2008年5月、対象：新一年生の保護者135人（配布154、回収率88%）

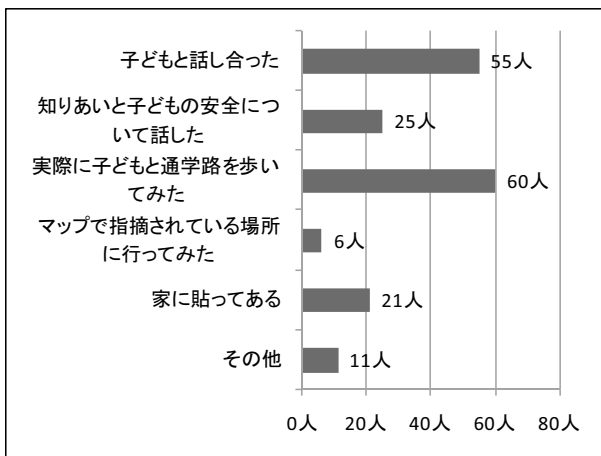


図5 新入生向けマップの活用方法

※複数回答。回答者数128人（無回答7人）。実施時期、対象は図4と同じ。

## おわりに

2008年3月、国土交通省 土地・水資源局土地政策課は、安全・安心まちづくり検討委員会（筆者も委員として参画）の成果として『安心して暮らせるまちにするために～地域防犯活動からはじめるまちづくり～』を発行した（図6、同局HPよりダウンロード可）。これは、継続的な地域防犯活動や魅力的なまちづくりにつながる「地域のネットワークづく

り」、「活動の計画づくり」、「活動の実践」についての手がかりを事例とともにまとめたもので、久米地区の取り組みは「地域のネットワークづくり」のくだりで紹介されている。求心力の高い地域組織のもと、学校との連携、専門家との協働によって地域の安全に取り組む久米地区は、全国の手本となるだろう。

あえて久米地区の今後の課題を挙げるなら「活動の計画づくり」にあると思う。防犯まちづくり計画は、関係者間で課題認識や活動方針を共有するためのものであると同時に、個別の活動に関して役割分担や優先順位（実施時期）を定め、長期的な視点をもって着実な実践を目指すものである。確かに、計画がなくても久米地区では防犯に限らず魅力的な取り組みが様々な形で実施されている。しかし、座談会で対策を議論した交通問題をはじめ、計画的かつ長期的に取り組むべき課題も少なくない。さらに高い目標を見据えながら、引き続き久米地区を応援させていただければ幸いである。

（ひの きみひろ）

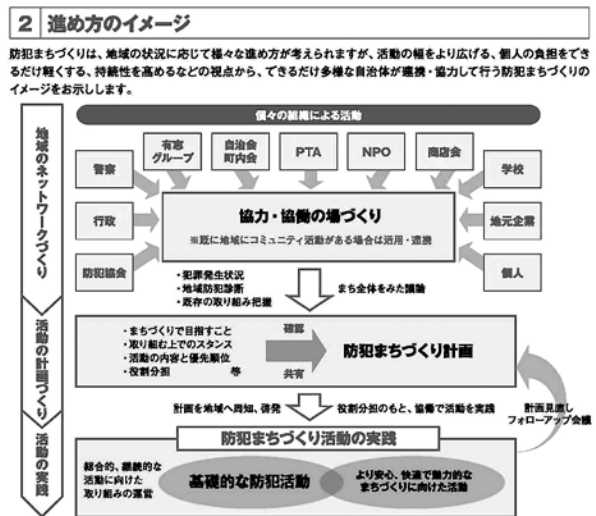


図6 「安心して暮らせるまちにするために」（抜粋）

<http://tochi.mlit.go.jp/tocsei/ansen/>

- 1 樋野公宏「地域安全マップから防犯まちづくりへー板橋区及び松山市の3地区6小学校区での実践を通してー」、「住まい・まち学習」実践報告・論文集8、(財)住宅総合研究財団、2007年8月
- 2 樋野公宏「松山市久米地区における地域安全マップづくり報告」、新都市、vol.59, no.10、(財)都市計画協会、2005年10月